

知っていますか？郷土の民話

蓼沼不動尊と仏沼

上三川は大小の河川が多く流れており、その流れは長年にわたって大地を潤し、そして人々を養ってきました。その中でも特に清らかな流れで知られたのは磯川です。磯川は磯岡の龍の口と仏沼を源流に、常光坊で江川に注ぐ小さな川です。上流には豊富な湧水によって、珍しい植物が群生する場所がありましたが、今では磯川緑地公園が当時の面影を現在に伝えていますが、今月は仏沼についての昔話を紹介します。

今からさかのぼること600年ほど前の室町時代、この地を宇都宮城主の宇都宮氏が治めていたころのお話です。このころの仏沼は一面に蓼の花が咲き乱れ、きれいな沼でした。底から湧き出るきれいな水は、不思議なことに真夏にはまるで氷水のように冷たい水となり、そして真冬には沼の周囲が暖かくなり、鳥や動物が群れて遊び、草木が茂るなど、まるで楽園のようでした。また、真夜中には沼底が金色に光り輝き、天女が沼の水面を舞い、不思議な音が聞こえるのでした。

このような不思議な出来事を、村人はすぐに宇都宮城のお殿様に伝えました。この話を聞いたお殿様は、早速仏沼の近くに住む村人たちに沼の底を調べるように命じました。すると、金

色に光り輝く不動明王像が一体見つかったのでした。お殿様は、鬼怒川のほとりにお堂を建立し、京の都より名僧を呼んで供養したところ、多くの人々がお参りに訪れたということでした。この後、不動明王像は山伏に背負われて、各地を移動しましたが、運んだ山伏が不思議な夢をたびたび見ることから、結局、鬼怒川のほとりのお堂に戻されました。後に満福寺に安置され30年に一度、開扉供養が行われています。

1年間で12の民話を紹介しましたが、長い歴史のある上三川町には紹介できなかった民話がたくさんあります。興味がある方は、今回の連載の出版である上三川町文化財研究会発行の「上三川町の伝説と民話」上三川町編をお読みください。



蓼沼不動尊が安置される満福寺護摩堂

広報川柳

岡島秀宝 選

討論会相手の話など聞かず

石田 前原 秀雄

孫ひ孫集い傘寿の祝い酒

上蒲生 鶴見 敏子

頬笑んだ遺影へ話す日を重ね

下横田 本多ひでじ

立春の福と鬼との運を蒔く

上町 上野 広江

明日へまた健康の文字重ねたい

石田 高橋 世津

おとなしい持病へ励むアルバイト

三村 上野久美子

梅一輪挿して友待つ日脚延ぶ

大町 小口 達子

雪化粧ライトアップへ目が痛い

石田 森山 アイ

お互いに空気となって老い二人

大町 大八木トク

道連れがやっぱり欲しい食べ歩き

上蒲生 菅原 妙子